

様式第 10 号  
Form 10

博士論文審査結果報告書  
Report of the Doctoral Dissertation Review Result

2025 年    1 月    29 日  
Date:

神奈川県立保健福祉大学大学院  
ヘルスイノベーション研究科長      殿  
To: The Dean of the Graduation School of Health Innovation  
Kanagawa University of Human Services

博士論文審査員  
Doctoral Dissertation Review Committee  
主査 鄭 雄一  
Chief Examiner  
副査 吉田 穂波  
Sub-chief Examiner  
副査 島岡 未来子  
Sub-chief Examiner

博士論文審査及び最終試験の結果について、次のとおり報告します。  
We hereby report the results of the Doctoral Dissertation Review and the Final Examination.

申請者氏名 Applicant's Name	伊藤 敏孝 Student ID	学籍番号 Student ID	62245001
論文題目 Dissertation Title	Evaluation and application of redundancy in promotion of Health Innovation Ecosystem		
審査年月日 Date of Review	2025 年    1 月    29 日		
論文審査及び 最終試験結果 Results of Dissertation Review and Final Examination	合格 Passed		
添付書類 Attached Documents	1 博士論文審査及び最終試験の結果の要旨（様式第 11 号） Abstract of the result of the Doctoral Dissertation Review and the Final Examination (Form 11) 2 論文の要旨（様式第 7 号） Abstract of Dissertation (Form 7)		

様式第 11 号  
Form 11

博士論文審査及び最終試験の結果の要旨  
Abstract of the results of the Doctoral Dissertation Review  
and the Final Examination

氏 名 Name	伊藤 敏孝
論文題目 Dissertation Title	62245001
論文審査員 Dissertation Review Committee	主 査 鄭 雄一 Chief Examiner 副 査 吉田 穂波 Sub-chief Examiner 副 査 島岡 未来子 Sub-Chief Examiner

【論文審査の結果の要旨】  
【Abstract of Dissertation Review Result】

当該論文は、ヘルスイノベーションエコシステムにおける冗長性の重要性について、スコーピングレビュー、アンケート調査、半構造化インタビュー調査により明らかにした研究である。

社会的意義（現代の保健・医療・福祉分野の重要な課題を抽出し、科学的根拠に基づいた革新的な課題解決の方策を提示し、新たな社会的・経済的価値を生み出すことができる学術上の創造性や新規性を有する）、研究方法の妥当性（先行研究等に裏付けされた学術的見地からみて実証的・論理的な整合性がある）、論旨展開の妥当性（文章表現および体裁が整えられ、研究論文全般に対して論旨が明確で一貫性がある、得られた研究結果と考察に整合性があり研究結果の表現が適切である、先行研究について十分な知見を有し適切な引用がなされている）、研究倫理の妥当性（実証の手続きが明記され、倫理的配慮を遵守している）、保健・医療・福祉学の発展に貢献できる学術的価値（研究の将来性、発展性が認められ、得られた成果の学術的到達度が認められる）について検討を行い、当該論文がこれらの基準を満たしていると判断した。

様式第 11 号裏面  
Back of Form 11

【最終試験の結果の要旨】

【Abstract of the result of the Final Examination】

博士論文審査および最終試験は、令和 7 年 1 月 29 日 18 時よりオンラインで実施された。申請者の伊藤敏孝氏より、日本語による約 60 分間の研究内容の発表があり、その後、主査・副査による口頭試問を、日本語で約 60 分間行った。

申請者は、現状の問題点、研究の目的、研究方法、研究結果とその解釈、成果の社会的意義、研究の将来展望などに関する質問に対し、高度で専門的な知識を駆使して、現研究の限界も踏まえて的確に回答した。

以上を総合して、課題の抽出と分析・課題解決策の呈示を通して保健・医療・福祉における新たな社会的・経済的価値を生み出す能力と、保健・医療・福祉の向上を担う国際的高度人材として国内外におけるリーダーシップを発揮できる学術性・専門性・教養・倫理観および価値観を有していると認められ、本研究科博士課程のディプロマ・ポリシーに照らして、博士（公衆衛生学）の学位にふさわしい人物であると判断し、審査員全員一致で、最終試験を合格とした。